



# 未来記憶

Remembering  
the Future ■

November 2013

東京都現代美術館 兎強打

石井 裕  
Hiroshi Ishii  
MIT Media Lab

[http://www.nytimes.com/interactive/2014/03/12/world/asia/20110312\\_japan.html?ref=asia#166](http://www.nytimes.com/interactive/2014/03/12/world/asia/20110312_japan.html?ref=asia#166)

MIT  
Media  
Lab

An aerial night photograph of a city in Japan, likely after the 2011 earthquake and tsunami. The city is in a state of total devastation, with buildings reduced to rubble and debris scattered across the landscape. A few lights from emergency vehicles and streetlights are visible, providing a stark contrast to the dark, desolate scene. In the background, mountains are visible under a deep blue twilight sky. The number '311' is overlaid in a large, semi-transparent white font across the center of the image.

311

[http://www.nytimes.com/interactive/2011/03/12/world/asia/20110312\\_japan.html?ref=asia#166](http://www.nytimes.com/interactive/2011/03/12/world/asia/20110312_japan.html?ref=asia#166)

An aerial night photograph of a city in Japan, likely after the 2011 earthquake and tsunami. The city is mostly in ruins, with debris scattered across the ground. A few lights are visible, including a red light on a road. The sky is dark blue. Large white numbers are overlaid on the image.

1896

1933

[http://www.nytimes.com/interactive/2014/03/12/world/asia/20110312\\_japan.html?ref=asia#|66](http://www.nytimes.com/interactive/2014/03/12/world/asia/20110312_japan.html?ref=asia#|66)



宮沢

Kenji Miyazawa

賢治

永訣の朝

けふのうちには

ごほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ  
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのを

（あめゆじゆとてちてけんじや）

うすあかくいつたう陰惨な雲から

みぞれはびちよびちよふつてくる

（あめゆじゆとてちてけんじや）

青い草葉のえやうのつりを

これらのふたつのかげを陶椀に

おまへがたべるあめゆきをとらうとして

わたくしはまがつたてつぽうをまのやうに

このくらいみぞれのなかに飛びをした

（あめゆじゆとてちてけんじや）

蒼鉛いろの暗い雪から

みぞれはびちよびちよ沈んでくる

ああとし子

死ぬといふいまでろになつて

わたくしをいつしやうあかるくするために

こんなさつぱりした雪のひとゆんを

おまへはわたくしにたのんたのんを



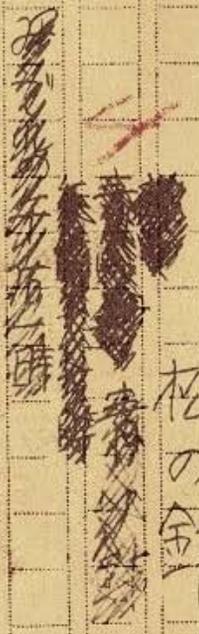
この雪はどこをえらばうにも  
ありまりどこをまっしろなのを  
あんなあざろしいみをおろから  
このうつくしい雪がキエの光

~~~~~~~~~ Umareda Kurutake  
Konoha Kotani Uta

~~~~~~~~~ ) Kun

おまへがたべるこのふえわんのゆきに  
ゆたくしはいまころからいのこ  
どうかこれが天上のアイスクリムに  
ゆたくしのすべての<sup>聖は</sup>かけてわがふ  
。おまへとみんなと<sup>至幸福祉</sup>をもたらすやう

松の針



~~~~~~~~~ あのみきれいな松のえがをよ  
あま おまへはまるごとひつくやうに  
そのみどりの葉にあつい頬をあてる  
そんな植物性の青い針のなかに  
はげしく頬を刺させることは  
はたしぼるやうにすることは  
ゆたくしをちぎることは  
あやうかす

# 身体

traces of body

# 痕跡

ああとし子  
死ぬといふいまでろになつて  
ゆたぐしをいっしやうあかるくするをめに  
こなさつぱりした雪のひとめんを  
めまへはわたくしはたのんたのを

永訣の朝

神 精

traces of spirit

軌 跡

永訣の朝

ああとし子  
死ぬといふいまでもろはなつて  
ゆたへしをいっしやうあかろ、するをめに  
くんなさつぱりし五雲のひとめんち  
めまへはわたくしはたのんたのを



# 理想

vision

# 理念駆動



vision-driven

【理念駆動】世界は加速している。テクノロジーは1年ですたれる。アプリケーションは10年でおきかえられる。しかしビジョンは、強いビジョンは、きっと100年を超えて生き続ける。そして僕らがいなくなった未来を照らしてくれる。だから僕の研究は理念駆動。技術駆動でもニーズ駆動でもない。



@ishii\_mit



出 杭

**stake that sticks out**

by Colm O Laoi <http://www.flickr.com/photos/colmolaoi/9529595532/>

# 百米

100m

【百米】100mトラックを人より速く走る事は、真の競創ではない。誰も分け入った事の無い原野を一人切り開き、まだ生まれていない道を、一人全力疾走すること、それが競創だ。そこには観客も審判もストップウォッチも存在しない。

<http://www.mot-art-museum.jp/exhibition/148/3>



@ishii\_mit

# 道程

僕の前に道は無い。  
僕の後ろに道は出来る。

高村光太郎

by Nicholas A. Tonelli <http://www.flickr.com/photos/14922165@N00/9853800537/>



# 道程

the road ahead

by Nicholas A. Tonelli <http://www.flickr.com/photos/14922165@N00/9353800537/>

# 山頂

summit

【山頂】 95年、僕がMITを選んだ理由、それは頂が雲に隠れて見えない高い山だったから、そして頂へと続く道がなかったから。

しかしそれが幻想だったことを後で思い知る。登頂すべき山なぞ初めから存在していなかった事を。その山を零から創りあげ5年以内に初登頂すること、それがMIT生き残りの条件。

<http://www.mot-art-museum.jp/exhibition/148/3>



@ishii\_mit



# 造山

orogeny



出杭力  
道程力  
造山力

# 三力



three forces

「出杭力」 (でるくいりよく) 打たれても打たれても突出し続ける力

「道程力」 (どうていりよく) 原野を切り開き、まだ生まれていない道を、独り全力疾走する力

「造山力」 (ぞうざんりよく) 未踏峰連山を、海拔零メートルから自らの手で造り上げ、そして初登頂する力

<http://www.mot-art-museum.jp/exhibition/148/3>



@ishii\_mit



22000

# Today

today

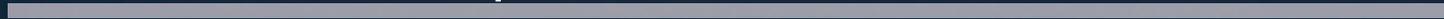


# 2050

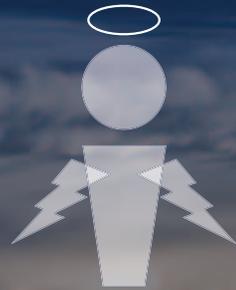


today

2050



# 2100



today

2050

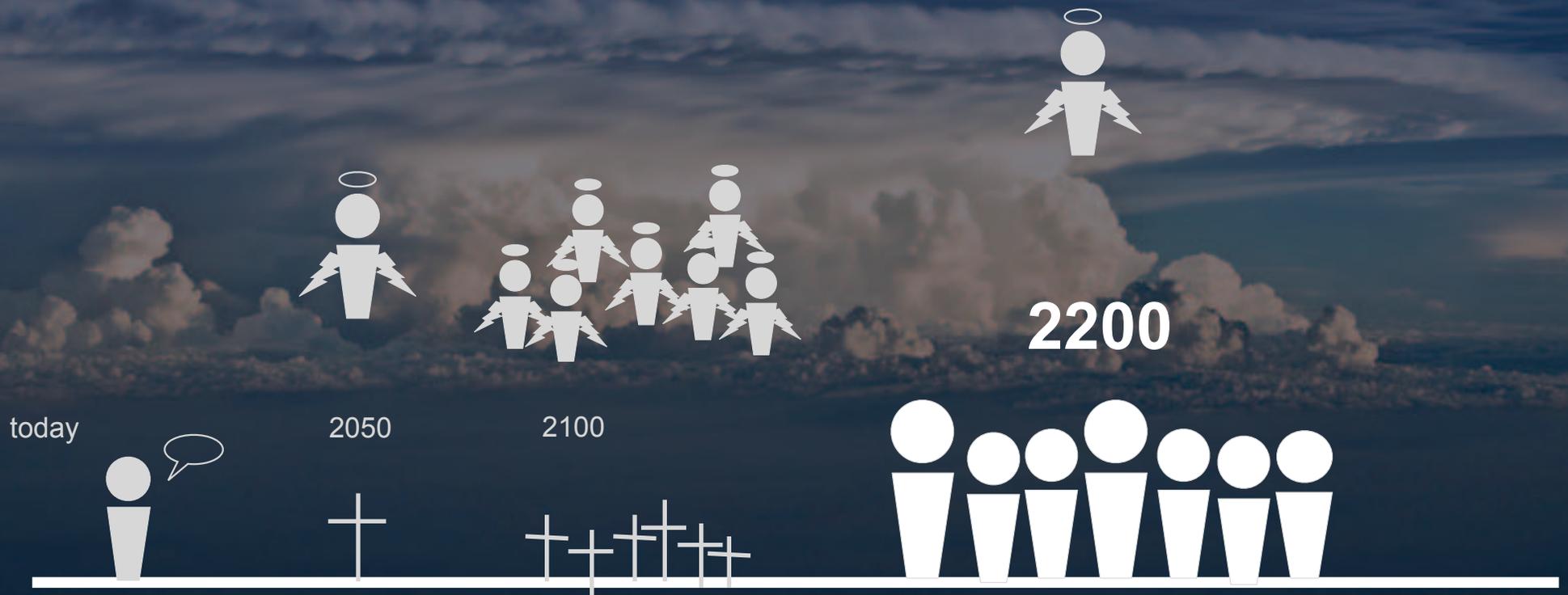
2100



2200



**What will you leave  
for the people living in 2200?  
How do you want to be remembered?**



二千二百年を生きる未来の人々に、  
あなたは何を残したいですか？  
どのように思い出されたいですか？



# 未来記憶



remembering future

【未来記憶】人々は過去の記憶を思い出す。不確かな未来を思い描く。

▶ 僕は未来を思い出す。遠い未来の人々が、僕が見た夢を思い出してくれる夢を通して。

<http://jennieallen.com/blog/wp-content/uploads/2012/01/beach-sand-sun-vacation-close-up-854.jpg>



@ishii\_mit

# 砂

sand

【砂】 何故走るのかとよく訊ねられる。

「人生は短か過ぎるから」と答える。

砂が指の間からこぼれ落ちるように、残り時間が減って行くのが分る。

だからこの一瞬が愛おしい。だから走る。あと何年？ すべての砂が落ち切った時、本当の未来が始まる。そこに僕はいない。

しかし『僕』はきっとそこにいる。

<http://jennieallen.com/blog/wp-content/uploads/2012/01/beach-sand-sun-vacation-close-up-854.jpg>



@ishii\_mit

永遠

eternity

未来

future

# 未来記憶

Remembering  
the Future ■

November 2013

東京都現代美術館 兎強打

石井 裕

Hiroshi Ishii

MIT Media Lab

4  
永訣の朝

MIT  
Media  
Lab